HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第10巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77385
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市発生史論。
File Information	N020_01S28.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Fine
MFG.CO.
TRADE MARK

SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社會學

二十八年度
特殊講義案
第十卷

都市發生史論

制作発展史論

人と人との社会的接触の様々なる方面に
関係して所謂生活構造の中に於て
文化は発生し成長し
とは一般に考へられるであらう。人と人との
社会的接触の様々なる方面が
には生活が進展して行くのが何時も
必要であらう。生活の進展に伴なひ
人の社会的接触の様々なる生ぜしむる何等
の條件である。然るに文化の発生成長
の為には生活と進展とを以て最も
重要な條件となるであらう。

人間が作り出すものは、まさに文化の集大成
ともいえるもの。都市が文化を築き成長させる
また都市が生活様式を生み出すことを
もっぱら人間の思考によるものであることは
考えられないよう。

格闘的四季のアイヌ独自の活動は、
アイヌの生活形式、即ち家族のかしこさに
比べ生活様式の集積形式の中に文化が
健やかに成長することは考えられない。

今の世界に比べ文化の事、歴史を
語る民族の本代、歴史の祭りは比べどん
な住居形式がなされたか立証には知ってみて

居ないけれども、知られて居ると限らてはゐな
村密居的村落をなして居たと思はれる様で
ある。一つの例外はゲルマン民族の場合で
ある。タキタスの「ゲルマニア」の時代には中海
（ゲルマンの事情は、）
一層整頓を与へられたが（であって）、近年於ける（歴史）
古代ゲルマニアの研究は考古学、古地
理学、言語学（宝位史研究も）の助力により法律についての[illegible]、
紀元前二千年代（ゲルマン部族は）[illegible]、（此の時代が）その研究に入れ[illegible]
法と散居的原落形式を認められて居る（であったと多くの学者が）
あつである。けれども是には尚ほ異文対
の主張もあり、ひさまれ問題もある様である。
けれども何れにしても、タキタスの時代の

その前に二千年の歴史を持つ古典古代文化の諸要素は
ゲルマニアが古典古代に対して文化の諸要素は
野蛮に見えたのはかなり長くその頃と同様に
国家権力の外にはまだ文化的な諸要素は
なかった。その暗黒時代の教世紀の両側
は忘れられたゲルマン民族は早や
独自の社会を形成していた。
中世時代都市の研究者達の中には二つの社会
ゲルマンの村落領国体制とローマ
の都市の起源を深く掘り下げる者が多
くの者が多かった。
思うにゲルマン諸族が古典古代時代文化の
継承者の最も中枢的運搬
者として西欧近代文化への発展に

重視したのは、技術を形成し発展させ
革命を成功させ、(窓口的)を始めたならば
中央集権的な政府形式
中央集権的な政府形式
つまり、ロシアの歴史的
ようにしかし、窓口的技術形式
を独裁はどこから出てきたのであるか。
ヤキリヤ
文化は、文明の中から出来上がり独
自身の
学問文化の内にかくのごとき
我々の前
が眠っていたのか、何かの
自分の仕事
が自分を窓口化せしめられる
かもれは色々な意見をもっているが
けれども独裁が窓口の仕事と独裁
を始めたり
同時的である
の文化の発展とは別に平行して
が活躍になった

[illegible]は[illegible]家、[illegible]。

文化の進展は民族による[illegible]の歴史的[illegible]

[illegible]に[illegible]一様でなく、同一の歴史的[illegible]

[illegible]に[illegible]成長の各段階が[illegible]同時に[illegible]のは

当然である。[illegible]又文化が同一の

方向に進んで[illegible]とも[illegible]に異論

はあるであろう。けれども[illegible]文化の

進展が[illegible]の[illegible]あの為の[illegible]強く[illegible]心なる

[illegible]、[illegible]その為に何らか[illegible]の形式に

[illegible]ると云ふ事は[illegible]

[illegible]の形式[illegible]に於いて文化の[illegible]

[illegible]と云ふ中[illegible]は矛盾、[illegible]ないであらう。

然るに、一般思想界における封建的な
法の内に文化は進んでいるものと考へる
為に、西欧中世に於ける都市が、さうであった
ことを考へる時に、かくのごとく、商業資本
的な経済が都市に進展したであらう
と考へる。これを考へる。
中世時代の都市における経済
を考察する。市場経済が都
市経済と考へられる。それは、
[illegible]
[illegible]
都市の経済とは、西欧一般の
これは、[illegible]中世民衆の都

＊多分中世初期の欧州は村落のみが存し都市は未だ存しなかった時代があった。

市が村落と同時に農耕を営むで（農村人口のみより出来てみた）
みて、（かっても考へられる）帰化した民族は村落の内において（非農的村落）
何か非農的人に
都市的存在を生じ、この村落が都市化
市的なったとも見られるし、これは非農的存在を含む立派な存在が
ある。都市は村落より成長し成長したとも
見ようとすれば（それが）理解することがある。村落の
みの存した時代を考へるとかかる考へ方が出来る。＊
その内の幾つかが非農的存在を論じ（それぞれが）
何かとなり、それに対立的となり都市
国家となる。かくて村落と都市に
家の（みの）時代があったと思はれる。そして
最も絶大な都市国家が民族内の（一定の）都市
統帝の時代

口宮を基く平安京と口宮を形成す。
右の如き順序で口宮が形成されたと見る見方は一の能です。
然し我が国の古代の平城京や口宮の所在地が都の定義する都市と異なるものとは考へない。
時間的同一物を辿って行けば、古代都市は空間的拡張なる辿られ方はなかなか
私が事物の発生の根元を中心とする所以です。又都市の機能を地域の中心に求めて居る所以です。
路地でしかなくて大体中世の始め頃

△古代にはまだ村落ではなく、ムラ中心の発生治に部落と云う順序です。

中口でしょうが

民族内の居住形式は大体村落からでその内から漸次村落が部落になるようか、或は村、その部落が発展つたものでありますが、そこに部落が都となったのであります。

中口部落の順序を考へられるか、中口のさい代は長んで部落。△

村落は巨大な部落が発展してきたのであります。

部落は村落から分れてきたのであります。

部落口家の時代は村落はなかったのだと思はれる。

村落と私は文化発展の人為的な

幽霊として村落、部落、口承、口承の幽霊
位を否定部分のと考へる。この幽霊
に強つて居ない民族の発展史が史実
として有ます。[illegible]
史実の上に築かれた[illegible]
可能です。

[illegible]
[illegible]
[illegible]
民族の中には近代になって始めて窓外の文
化を始めたとしてあります。そんな民
族に高い文化が成長しうるはずはない。
又、文化の交流の時代に
民族の如何なる文化の段階に属し民族
に高度の文化を有ます。一般の人に於
民族の

事位し強度をふまい民族内を平等し
たるが如き場合には事態は発展
する順位は客観的なものと異なってい
ればとし文化の多様の変化は常に
存在するとしてもその民族自体の内
に自然発生的に発生成長する事実
形式の順位等は外来文化による
形式の順位は発生成長します。事実を私は
厳密的合理的進行と思はるものであ
して客観的と

＊但し私学は中世以後ぬにはたし
かし都市の経済のため発生する
都市を主とするが、それ以前には
前都市的存在があったのである。
それ以後は古い都市は十五、
十六、十七、八カ所階一二の都市
的機能を有して居たのである。

一、都市の発生も
都市の概念を政治的に求めて
見る人は、かくの如き概念に包含
する。都市の存在は日本の統制
の~~成~~立されるのであると認め
2、それ以前にも存したかも知れぬ。
少くとも前都市的なものの中に
機能の一部のみを持ったもの
はあったに相違ない。
但し都市的機能は農村の中
から極めて除々に発生して来
たのである。都市は一夜に出来
たのでなく、極めて除々に発展し
て来たのである。古い都市は恐らく
ころとは異なっていたであろう

クリスマンシュの古代印章に相当する印章発見の話は芸術化し神秘化したものである。又あれは印章四字の発見の話であって印章の発見の話ではない。印章の発見はあの前に既にあったものとみるべきか。

相撲の発見が明瞭に相撲の発見と明瞭に相撲から印章の発見と明瞭に区別しなければならない。前印章的相撲の発見即ち印章的相撲の一つの発見に対応する。

人の巫女が成人に成長する。

その為に都市的機能を発生せしめたとか、用水の便があつた為に都市的機能が発生したとか、様々であらう。

都市的機能の一つ又は二つが発生したことが都市に発展するとはいつてもよさそう上一般にいへやう。

都市の起源は文化史的に都市が時代的に発生した時の起源を考へるとむつかしい。今日でも都市が発生して行く事情も考へ得るが、ある民族に都市が発生した時の事情と今日発生して行く事情とは異なつて居るであらう。

氏神が産土神になる過程と同様に
考へられる。
それと人々が祭をして来た神様
からの概念は古代の人々
独解出来ない。
今の学者
が考へたとおり部落が発生
する中心、ロクロをよくする人のところ
に、又はよい土の取れるところに
土器を作る人が集まって部
落が構成の一つが来たるとも
道理は同じ様なもの
文化の発展は根本的に時代を
考慮の中に入れなければ解釈出
代が書物を作ったり
考古学的研究である。

印章の型と系印章の型とは型に過ぎない。

系印章の型は印章の型に於ける印章の型は政治機能の型である。